

2006 年度

科目名  出版文化 I	対象学科・学年 文学部日文 2 回生	担当者  高橋 圭一
授業テーマ 江戸時代の出版物の様々。		
授業の概要と目標 日本文学史を大きく前後二期に分けるとすれば、江戸時代より前とそれ以後で線を引くことが一般的です。それは江戸時代に現在のような出版（印刷、ということでしたら遥かに遡ります）が始まったことに、大きな変革点を見出していることによります。出版は日本の文化そのものを変容させました。まず、出版行為の意義から説明し、京都、大坂、江戸の特色有る本屋と出版物、貸し本屋とその読者について解説します。		
評価方法 講義終了後に課するレポートによって評価します。出席も加味します。		
テキスト 使用しません。プリントを配布します。	著者	出版社
参考書 『江戸時代の図書流通』（購入する必要はありません） 他に、鈴木俊幸氏の著作	著者 長友千代治	出版社 思文閣出版
授業スケジュール・内容 1、出版の始まり。その文化的意義。 2、整板本（江戸時代の活字本）について。 3、京都の本屋。本屋の始まり。 4、 続き。 5、大坂の本屋。井原西鶴の浮世草子を中心に。 6、 続き。 7、江戸の本屋。蔦屋重三郎（写楽や歌麿を世に出した本屋）を中心に。 8、 続き。 天明文学のプロデューサー蔦重。 9、 続き。 寛政の改革と蔦重。 10、本屋の周辺、板木屋・表紙屋・刷り師など。 11、 続き。 12、貸し本屋について。 13、 続き。その読者。 14、名古屋の貸本屋大野屋惣八のこと。 15、私は江戸時代を専ら扱っていますので、最近研究が著しく進みつつある明治期の出版文化については、その分野を専門とされている方に、一度授業をお願いする予定です。		